

首の硬直

頭痛は、誰にでも起こりうる症状である。だが、その奥には命取りになるような病気が隠れていることもある。大騒ぎして、悪いことはない。

47歳のA子さん。「昨日から、後ろの頭から首にかけて痛くなった。いきなりだ。くも膜下出血に違いない」と言ひめてくる。同じ病気で母親を亡くしている。お母さんも、発症後、頭だけではなく、首から背中をひどく痛がっていたという。「だから、この首の痛みも、くも膜下出血のせいでは？」と言っている。

確かに、くも膜下出血を起こすと、後頭部が硬くなることがある。「頂部硬直」と呼ぶ。出血により、脳を包んでいる髄膜が刺激されて起きるものだ。首を前屈させると、後頭部や背部に痛みが走る。で、首を曲げて頸を胸にくっくっつけることができなくなるのである。

だが、この頂部硬直は、くも膜下出血を起こしたら、すぐに表れるものではない。短くて数時間から、半日以上経たないとみられないのが特徴である。

となれば、Aさんに、「首の痛みは、頭痛の後でだいぶ経ってから起きたのであれば？」と問い質さなければならぬ。実は、椎間板ヘルニアや変形性頸椎症でも、「頸部強直」といって首が硬くなる。頭も痛くなることがある。この場合は、首、肩の痛みや凝りは頭痛と同時に、または頭痛に先行するはずである。

だが、不安で頭が真っ白になっているA子さん。首も頭も、症状の順番もごちゃ混ぜになっている。結局、頭のMRI（磁気共鳴画像）の検査もして、くも膜下出血ではないと分かった。頸椎症と診断。と「もう治ったみたい」とケロッとしている。

頭であれ首であれ、痛みには何らかの原因がある。早く検査を受けて、すっきりさせよう。がまんして、ストレスをため込むだけ頭痛はひどくなるものだ。

(石黒修三 さいしほろクリニック・脳神経外科専門医・10/25 北國新聞掲載)